

令和8年度第1回小牧市環境審議会 議事録

日 時	令和8年5月22日（金）午後3時00分～午後4時10分
場 所	小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
出席者	<p>【委員】（50音順）</p> <p>○石川 英里 中部大学応用生物学部教授 伊藤 かおり こまき環境市民会議会員 酒井 美代子 小牧市女性の会会長 高木 花織 小牧市小中学校校長会 出口 寿昭 公募委員 馬場 容子 公募委員 堀口 貴範 市内事業所推薦</p> <p>◎増田 理子 名古屋工業大学工学専攻社会工学教授 宮脇 稔 愛知県地球温暖化防止活動推進員</p> <p>※ ◎会長 ○副会長</p> <p>【事務局】</p> <p>小川 真治 市民生活部長 堀田 正二 市民生活部次長 渡邊 浩 カーボンニュートラル推進課長 梅村 知成 環境保全課長 鈴木 勇司 カーボンニュートラル推進課環境政策係長 中村 耕一 環境保全課保全美化係長 古川 朋和 環境保全課保全美化係長 若山 愛美 カーボンニュートラル推進課環境政策係主査 今井 沙奈恵 カーボンニュートラル推進課環境政策係主任</p>
欠席者	松浦 秀則 あおい交通㈱代表取締役
傍聴者	0名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・小牧市環境審議会名簿 ・【資料1】第三次小牧市環境基本計画（改定版）アクションプラン

主な内容

<p>1 開会</p> <p>今任期初めての顔合わせのため、各委員より自己紹介（50音順） 事務局側の自己紹介 代表して小川部長よりあいさつ 事務局より以下を案内</p>

- ・本日の会議ではペーパーレス及びDX推進のため、デジタルの資料を用いる。
- ・各委員に1台ずつパソコンを用意し、パソコン上で資料を確認しながら進行。

2 議題

(1) 会長及び副会長の選任

- ・互選により、会長に増田委員、副会長に石川委員を選任

(2) 第三次小牧市環境基本計画（改定版）に係るアクションプランの進捗状況について

- ・事務局より資料1について説明
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

(出口委員)

小牧市の環境基本計画は、自然共生や生物多様性のボリュームが飛び抜けて多く、ユニークだと思う。全国の様々な環境基本計画を見ているが、小牧市の計画は良い意味で尖っている。馬場委員の兒の森活動グループなど市民と事業者、行政が協働して取り組んでおり、最近のごみやリサイクルで小牧市が話題になることもあるが、生物多様性についても誇るべきことである。

質問として、指標生物種の指標が現状維持のように見えるが、もう少し詳しく例えば個体数で見た場合、減少傾向があるのかなどを伺いたい。もし個体数が減っている現象がみえるのであれば、目標達成しているから大丈夫というわけではなく、危機感をもって対応していかなければならないと思う。逆に増加している状況が見受けられるのであれば、最近ネイチャーポジティブということがよく言われているが、ネイチャーポジティブの実現のひとつになる。市民で活動をされている方にとっては自信や誇りに繋がっていくと思う。

(事務局)

今回の第三次小牧市環境基本計画の改定にあたり、生物多様性地域戦略として新たに章立てし、大きなウェイトを占めている。

今回より指標生物種を取り入れているが、指標生物種は誰でも観察できる生きものとしており、広く市民の方々が見たという声を拾い、どこで見られたかという情報を収集している。そのため数の増減は把握していないが、今年度からホームページにも掲載し、より広く市民から情報を集めて整理していく。昨年度から始めたためデータの積み上げがない状況だが、情報を集めて今後は分析していきたい。

(伊藤委員)

環境教育について、主におそらくこども向け、学校向けの計画がほとんどかと思われるが、様々な環境問題の面からも大人に対する教育も必要かと思うがどのように考えているか。

(事務局)

ごみについて、計画的なものは定めていないが、年間 20 件ほど地元からの要望がありごみ・資源の分別について出前講座を開き普及・啓発に努めている。

子どもだけではなく、少しでも保護者の方へということで、市民まつりや環境フェアなどのイベントで知っていただきたい内容をクローズアップして、周知するような形をとるようにしている。

自然環境保全に関しては、こどもの頃から自然に触れる体験を重視しているため、こども向けのイベントが多い。大人向けとしては、毎月兒の森で自然観察会を実施している。また、多くの来場者がある環境フェアでは外来種や生物多様性についての展示も行っている。来週にはオオキンケイギクの駆除活動を予定しており、これまでの小学校の児童と企業の大人の方に参加に加えて、広く一般市民方も参加していただける。こどもを含め、大人にもイベントを拡充していきたい。

(馬場委員)

市民環境講座でこどもも大人も参加できる講座を以前受講したことがあり、小さな水槽にエビやカニ、貝、ドジョウなど入れて生態系が保たれていれば水を変えなくてもいいという講座であった。今年度の予定はあるか。

(事務局)

今年度はパナソニックさんのご協力のもと環境にやさしいランタンづくりとして親子講座を8月に予定している。

(馬場委員)

大人だけの参加は可能か。

(事務局)

こどもがメインで今年は企画しているが、今回のご意見をもとに大人向けの講座も今後考えていきたい。

コロナ禍前は大人向け講座を開催していたが、同じ方が参加されたり、参加者を集めるのが難しかったりと課題があり、一旦視点を変えて親子向けの講座をスタートさせた経緯がある。

こども未来大学もある中で、講座の対象がこどもに集中している部分も事務局として感じているところもあるため、どこでどのような講座が開催されているのか整理しながら、いろいろな方に環境学習の場を提供できるよう考えていきたい。

(酒井委員)

私たちは、廃食用油を使った石けんづくりをプラザハウスで毎月行っている。大人の方にもぜひ参加していただき、廃食用油がどのように石けんに変化していくのかを体験していただきたい。また、今年度はぼかし講座といって、生ごみを処理するため

のぼかしづくりも第2日曜日に行っており、環境に関わる講座としてぜひ足を運んでいただけたらと思う。

(堀口委員)

脱炭素について、達成指標で現時点で集計不可とあるが、日本全国で2050年カーボンニュートラルを達成するのはなかなか厳しいと思われる。その中で目標値が設定されているが、実態を教えてください。

(事務局)

2050年カーボンニュートラルを目標としており、今回の環境基本計画では2030年までに46%削減という目標を掲げている。ご意見いただいたとおり達成が厳しい状況ではあるが、まずは省エネ・再エネの設備の導入を促進し、それでも厳しい部分についてはカーボン・オフセットという制度を利用するなど、あらゆる方法を検討しながらカーボンニュートラルを目指していきたい。

(宮脇委員)

第三次小牧市環境基本計画（改定版）の冊子の70ページにトウカイモウセンゴケが写真入りで掲出されており、ありがたく思っている。3年ほど前から毎月第1日曜日に尾張白山に登り、トウカイコモウセンゴケを見るというプログラムを年間12回組んでいる。その中で入り口の道路がきれいになりありがたく思っているが、中が荒れている状態である。トウカイコモウセンゴケは絶滅危惧種でも指定天然記念物でもないが、東海地方の固有種の植物のひとつとして大事にしていきたい。小牧の観光資源にもなりうるので今の状況から改善していただきたい。数値だけではこのような話は出てこないため敢えて触れさせていただいた。

(事務局)

イノシシが出る場所で荒らされているということ把握はしている。宮脇委員の発言のとおり貴重な植物でもあるので、今回伺った内容について貴重なご意見として承る。

(高木委員)

まめなしの里も兒の森も本校の校区で、豊富な環境資源、自然に恵まれている。何とか学校の方でうまく環境教育に活かしていきたいと思っはいるが、小学校からの距離が遠く、中学生は自転車で行けるが、小学生だとなかなか厳しく困っている。そんな中で水生生物調査をさせていただいているが、学校再編を迎え、光ヶ丘小学校、大城小学校、篠岡小学校は一旦閉校をして桃花台東小学校になる。私としては水生生物調査は何とか続けていきたいと思うが、学校の規模が大きくなり、子どもたちの動きもどうなっていくかという中で、市からも様々な方向から支援していただけるとありがたいと思っはいる。

(事務局)

桃花台地区の小学校には様々な活動を実施させていただいている。児童が歩ける距離や生物調査ができる場所が限られる中ではあるが、愛知県や環境省にも届くデータとなるため、可能な限り実施していきたいとは考えている。現地をよく知っている職員もあり、打合せを重ねて引き続き実施していきたい。

(石川副会長)

基本目標 I の 33 行目にあるが、こまくるの自動走行について実証実験をしたことを知り、驚いた。大学に通う学生たちも小牧方面からくる場合、公共交通機関がなく自分で車を運転してくることであり、時間によっては非常に混雑しており、時間に余裕をみて家を出る必要があったり、大型のトラックが多く運転が怖いという声を聞く。バスの運転手不足の問題もあるのであれば自動運転バスが利用できるようになると非常に助かると思う。また、大学生であれば自分で運転できるが、高校生・中学生は親が車を出すことになり、車の数が増え、交通渋滞になる。自動運転バスが完全に安全に利用できるようになるまでは年数がかかると思うが、このような公共交通機関を増やしていればカーボンニュートラルに繋がると思う。

(事務局)

今年度から E V バスを導入している。小牧市は産業、物流が多く、その部門の温室効果ガス排出量の削減が課題であるため、引き続き取組を進めていきたいと思う。

(増田会長)

他の市町では外国人労働者が増えてきてごみの分別であったり、交通ルールを守らないなどの問題が出てきているが、小牧市としては大丈夫なのか。また、そのような方々への教育をどのようにされているのかを伺いたい。

(事務局)

小牧市は約 1 万人の外国人数がずっと続いており、ここ数年で始まったことではないが、小牧市では他の自治体よりも早くごみの分別アプリを取り入れ、多言語化して 7 か国語に対応して分別を理解していただくようにしている。一概には言えないが日本人と比べるとごみの出し方に差があることから、地元からの通報に基づいてごみ袋の中身を確認し、自宅訪問して指導している。そうした取組により減ってはいると思うが、人の入れ替わりが早くいちごっこの部分はあるが努力はしているところである。

(伊藤委員)

外国籍の方たちと日本人とは文化が違い、広報など配布物は読まない文化であ

る。口コミが一番伝わりやすいと言われている中で、色々試しているとは思いますがなかなか伝わっていないような感じがする。何かよい方法を考えていただけるとよい。

(事務局)

コミュニケーションの面で携帯電話が今の時代は効果的と考え、まずアプリの普及にここ数年は力をいれている。それだけではならず、企業にお願いをして直接対応できる場を設定できないかと動いてはいるが、なかなか企業からの理解を得ることができないのが現状である。寮をお持ちの企業も多いことから、例えばそういったところに出向き出前講座を開催して、何がわからないかを直接聞きながら対応しながら解決できればと考えている。外国籍の労働者が多い企業側から効果的な方法があれば教えていただき実行していきたい。

(出口委員)

先ほど堀口委員からカーボンニュートラルの目標値が厳しいのではないかという発言があったが、本当に頑張れば実現できるかもしれないという可能性はある目標だと思う。一方で達成できないのに目標値に掲げて良いのかという項目がある。基本目標Ⅳ「安全・安心・快適な社会の実現」の大気汚染に係る環境基準達成項目数のことである。現在の3項目を2030年度には4項目にするとあり、具体的には光化学オキシダントは現在環境基準を達成していないため2030年度には達成しようという目標だと思うが、私は絶対無理ではないかと思っている。

今年の4月に光化学オキシダントについて環境基準の改定が発表され少し基準が緩くなったが、目標達成は依然として厳しいと思う。環境基準の改定を受けて達成はできそうか。

(事務局)

大気汚染に関して小牧市域では小牧高校に大気汚染測定局があり、代表4項目を測定している。この計画を作った時点で環境基準の見直しの話は出ていたが、測定項目として4項目あるなかで、敢えて外すのも違和感があると感じており、現実的には4項目達成はほぼ0%で難しいことは承知をした上で4項目にしている。今後、環境省で基準が改定されたところだが、それでも達成率が低いようであればさらなる見直しを環境省も含めて考えていくことになると思う。小牧市全体の大気汚染の状況を見る指標としてこの4つを挙げている。

以上